

「元気づくり支援金活用事業」による登山道整備作業が無事に終了しました。王滝村役場の担当者の皆様、ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

さて第5号では、その登山道整備の様子、「カレン族の暮らし方、生き方その2」ミズゴケ応援隊の活動についてお伝えします。

四年目の思い

一般社団法人Roots Ontake 畠山智明

8月24日から28日の5日間、「土中環境」という、土の中に向けた視点を持つ登山道整備が、田の原天然公園にて行われました。

この活動は、2023年から始まり今年で4年目です。王滝村住民や、役場職員、全国各地から集まってくれた施エスタッフ、ボランティアスタッフのべ20名により実施された、湿原回復へ向けた取り組みの一環です。

丸太や木杭、川石などの自然物を使い、水の通る道を作っていきます。それは御嶽山に降った雨を土地の恵みとして浸透させ、循環するように、そしてその水が、できる限り湿原を潤す水となることを願っているのです。

これまでに整備された登山道では、水の流れが穏やかになり、砂利の流出が減少しています。今回の施工では、水たまりはなくなり、とても歩きやすい道になりました。



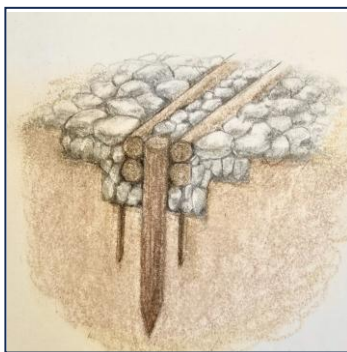
施工前：2025. 9. 5



施行後：2026.8.29 雨の後



重機で掘ったあと、グリ石をがっちりと詰め、丸太を固定します。次に川石を使い踏む面を作っていきます。縦長に石を収めていくことがしっかりとした石畳を造るポイントです。



初年度から関わり続けている施エスタッフも、徐々に変化していく田の原に希望を持っていました。

今後もこの活動が続いていくよう尽力していきたいと思います。 **(裏面もあります)**

ミズゴケ応援隊は行く（8/1、9/5に笹刈りを実施）



「効率よりも丁寧さが必要で、地道な笹刈り」さて、どんな作業をするのでしょうか。

笹の根は地面に広がり伸びています。びっしりと覆って地面を持ち上げ、下に空洞ができています。根を引き抜ければよいのですが無理な時は、できるだけ生長点のある地際で笹を切り取ります。そのため地面にへばりついて作業することになるのです。今後も地道に丁寧に作業を続けたいと思います。

新しい案内板が石畳の脇に設置されました！



東屋周りの笹の中、3か所にミズゴケ発見！【次回9/22にミズゴケ応援隊出動します】

タイのカレン族の暮らし方・生き方～その2（Roots Ontake 鈴木眞美）

＜苦難の歴史を乗り越えて、今の若者へ引き継がれたもの＞

山岳民族の歴史は、苦難の連続だった。アヘン戦争に始まったケシ栽培による麻薬中毒と貧困。タイ政府はケシに代わりコーヒーの栽培を奨励するが、コーヒーを飲む習慣も販路もなく、コーヒーの木は森に放置される。その後森を伐り開き、単一栽培の近代農業や、多国籍企業のGMコーンの栽培が始まった。



カレン族の革命農民ジョニは、どんなに働いても借金が増える資本主義農業に対して、カレン族の伝統的な暮らし方、生き方に還ることを呼びかける。

1996年、1万5千本の森の木に僧侶の着る黄色の布を巻き、木を神聖な存在にして伐採から守ったという「木の得度式」は彼の運動の象徴である。

今ジョニの思いを引き継いだ若者たちは、焼畑を7年サイクルで森に戻す「ク」という伝統的な森林循環農法や、自然信仰の精神を取り戻し、

「森は私たちの家であり、命と同等に愛する魂だ」と語る。そして、放置されたコーヒーに着目し、スペシャルティコーヒーという品質の高いコーヒーを世界へ発信している。

「儲けることが目的でなく、コミュニティの幸せや価値観、生き方、文化全体、そして、自然を守ることが目的」と語る若者の言葉が頼もしく響いた。

編集後記：9月も半ばを過ぎて、冷えた風に秋の気配を感じます。雨が降るたびに施行後の様子が気になるこの頃。ミズゴケたちにとって嬉しい雨も、各地に広がる大雨被害に心が痛みます。命の源である水が、前例のない程の脅威ともなり得る今、価値観を見直す時が来ているのかもしれない。（S.G）

√Roots Ontake 一般社団法人 ルーツオンタケ

長野県木曽郡木曽福島1240

mail : 3067kisoontake@gmail.com

